

9:1 預言者エリシャは預言者の仲間たちの一人を呼んで言った。「腰に帯を締め、手にこの油の壺を持って、ラモテ・ギルアデに行きなさい。」

9:2 そこに行ったら、ニムシの子ヨシャファテの子エフーを見つけなさい。家に入って、その同僚たちの中から彼を立たせ、奥の間に連れて行き、

9:3 油の壺を取って、彼の頭の上に油を注いで言いなさい。『【主】はこう言われる。わたしはあなたに油を注いでイスラエルの王とする。』それから、戸を開け、ぐずぐずしてしないで逃げなさい。」

9:4 その若者、預言者に仕える若者は、ラモテ・ギルアデに行った。

9:5 彼が来てみると、ちょうど、軍の高官たちが会議中であった。彼は言った。「隊長、申し上げることがございます。」エフーは言った。「このわれわれのうちのだれにか。」若者は「隊長、あなたにです」と答えた。

9:6 エフーは立って、家に入った。そこで若者は油をエフーの頭に注いで言った。「イスラエルの神、【主】はこう言われる。『わたしはあなたに油を注いで、【主】の民イスラエルの王とする。』

9:7 あなたは、主君アハブの家の者を打ち殺さなければならない。こうしてわたしは、わたしのしもべである預言者たちの血、イゼベルによって流されたすべての【主】のしもべたちの血の復讐をする。

9:8 それでアハブの家はことごとく滅び失せる。わたしは、イスラエルの中の、アハブに

属する小童から奴隷や自由の者に至るまでを絶ち滅ぼし、

9:9 アハブの家をネバテの子ヤロブアムのように、またアヒヤの子バアシャの家のようにする。

9:10 犬がイズレエルの地所でイゼベルを食らい、彼女を葬る者はだれもない。』」こう言って、彼は戸を開けて逃げた。

9:11 エフーが彼の主君の家来たちのところに出て来ると、一人が彼に尋ねた。「何事もなかったのですか。あの気のふれた者は何のために来たのですか。」すると、エフーは彼らに答えた。「あなたたちは、あの男も、あの男の言ったこともよく知っているはずだ。」

9:12 彼らは言った。「?でしょう。われわれに教えてください。」そこで、彼は答えた。

「あの男は私にこんなことを言った。『【主】はこう言われる。わたしはあなたに油を注いで、イスラエルの王とする』と。」

9:13 すると、彼らはみな大急ぎで自分の上着を脱ぎ、入り口の階段にいた彼の足もとに敷き、角笛を吹き鳴らして、「エフーは王である」と言った。

オムリに始まりアハブ、アハズヤ、ヨラムと続いた王朝の最期がここに記されています。彼らは代々主に背き、異教・偶像に仕え、正しい預言者を殺し、圧制によって民を苦しめ、勝手な礼拝によって国を混乱させた王たちでした。

しかも苦難にあっても悔い改めることなく、むしろ正しい預言者に怒り、決して神に立ち返ることをしませんでした。そのような主への反逆は子から孫へと伝わり、もはやその一族の存在が、イスラエルを滅びへと追いやる存在となっていたの

です。

主は彼らによってイスラエル全民族が滅びることを、放置はしませんでした。エフーによってヨラム王と一族が滅ぼされ、ここに悪の王朝は消滅したのです。

家臣が混乱に乗じて王を殺し、王位を取るということは、古代にはよくあることでしたが、その背後には主のみこころがあったのです。主は先にエリヤにこのことを宣言しておられました。

どんなに華々しく見えるものでも、主をないがしろにするなら、その末路は悲惨なものであることを再認識しましょう。しかし主に立ち返るなら、主はその罪を赦し、全ての悪からきよめてくださることを覚えて、安心して主のみこころを行いましょう。

そのために主イエスはすでに十字架にかかってくださいました。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満たしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

